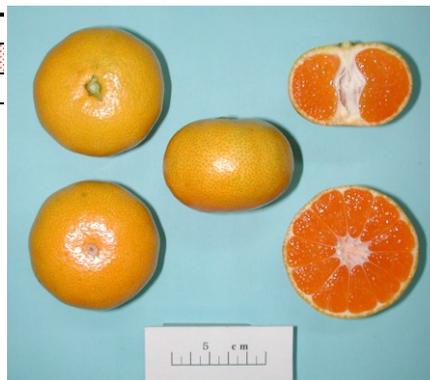
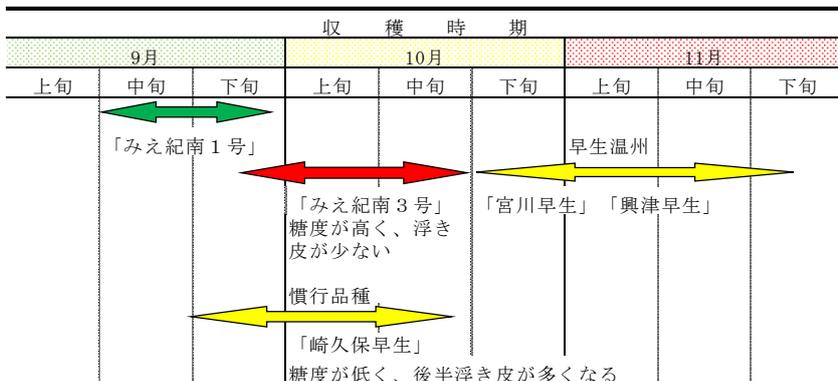


完熟高品質極早生ウンシュウ「みえ紀南3号」を育成しました。

利用対象：カンキツの栽培を行っている農家

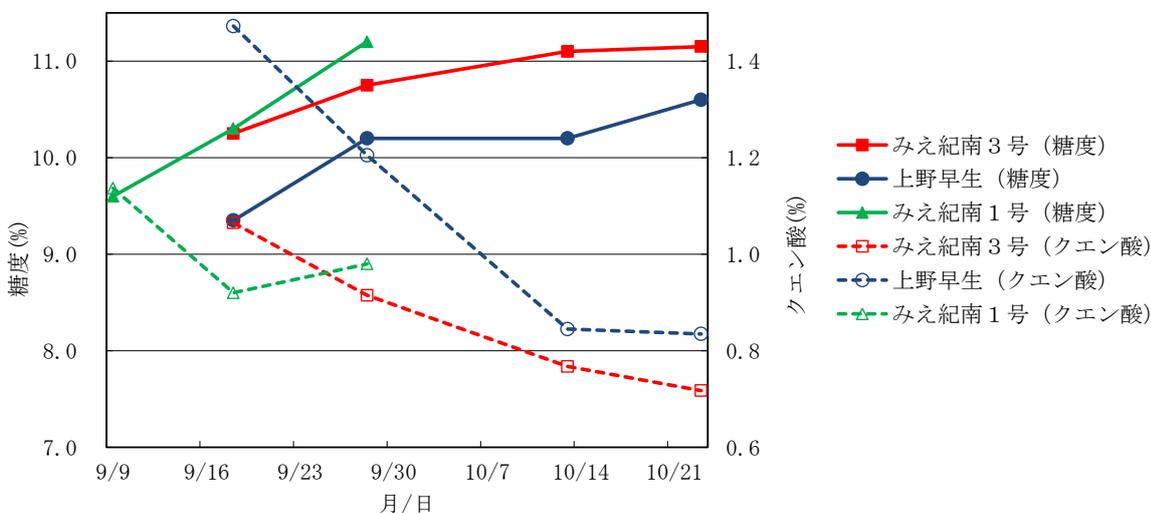
極早生ウンシュウ「みえ紀南1号」に続いて収穫できる高品質な極早生ウンシュウ「みえ紀南3号」を育成しました（「上野早生」の珠心胚実生、平成24年4月4日登録、品種登録番号：第21748号）。



三重県東紀州地域のウンシュウミカンの品種構成案

「みえ紀南3号」の果実

収穫期は9月下旬から10月中旬で、「みえ紀南1号」に続いて収穫できる極早生。果実は扁平で、減酸が早く浮き皮も少ない。糖度が高く食味は良好。



「みえ紀南3号」の糖と酸含量の推移 (平成21年、紀南果樹研究室)

「みえ紀南3号」の浮皮の程度別発生割合 (平成21年10月13日調査、紀南果樹研究室)

品種名	浮き皮指数別の果実割合 (%)				商品化率 (%)
	0	1	2	3	
みえ紀南3号	81	19	0	0	100
上野早生	64	36	0	0	100
崎久保早生	33	43	18	6	76

浮皮指数：0は浮皮なし、1は果梗部に浮皮あり、2は赤道面まで浮皮あり
3は果頂部まで浮皮あり

商品化率は浮皮指数0と1の合計

1. 背景とこれまでの課題

三重県でおもに栽培されている極早生ウンシュウは「崎久保早生」ですが、10月中旬には浮き皮の発生が多くなるため完熟栽培には適しません。また、三重県が平成20年3月に品種登録した「みえ紀南1号」は「崎久保早生」より糖度が1度以上高く収穫時期も7~10日程度早いですが、「みえ紀南1号」は収穫時期が早いため、極早生ウンシュウに引き続いて出荷される早生ウンシュウ（「宮川早生」「興津早生」）との間に出荷できる高品質なみかんがありません。このため、その間に収穫できる高品質で浮き皮の発生が少ない完熟タイプの極早生ウンシュウが是非必要であり、現地からの要望も強いです。さらに、中南勢地域では高品質な完熟タイプの極早生ウンシュウの導入により収穫労力の分散が図られ、経営安定につながると考えられます。

2. 成果の概要

1. 「みえ紀南3号」は9月下旬から10月中旬に成熟する品種です。この時期は、「みえ紀南1号」と早生ウンシュウの収穫の端境期です。
2. 母親の「上野早生」は浮皮が少ない品種ですがやや減酸が遅いことが欠点です。「みえ紀南3号」は、外観は「上野早生」と同様果実は扁平で皮も薄く、果肉色も良好で着色もやや早いです。
3. 果実糖度は、「みえ紀南1号」と同程度で「上野早生」より約1%高く推移し10月中下旬には露地栽培で11%になります。クエン酸の減少は「みえ紀南1号」より約10日遅く、「上野早生」より約10日早いです。
4. 10月中旬の浮き皮果の発生は、「崎久保早生」にくらべて少ないです。

3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

- (1) 三重県のカンキツ振興地域に導入できます。

4. 普及上の留意点

- (1) 樹勢は「上野早生」より強いため、植栽間隔は広めにする必要があります（2.5m×2.5~3.0m）。
- (2) 幼木の育成期間は刺の発生が見られるため早めに取り除く必要がありますが、樹勢が落ちついて着果が多くなると無くなります。
- (3) 栽培には三重県の許諾が必要です。詳しくは紀南果樹研究室ホームページ（<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KINAN/index.htm>）をご覧ください。

お問い合わせ先	紀南果樹研究室 市ノ木山 浩道、須崎徳高 中央農業改良普及センター 村田 博則	電話 05979-2-0008 電話 0598-42-6323
参考になる資料	品種登録：登録番号 第21748号、品種登録年月日 平成24年4月4日	
研究実施予算	新品種育成による果樹産地活性化事業	